

次年度以降の花育推進の取り組みについて
(意見交換)

花育の日の取り組みを通して、花育の普及活動を効果的に行うためには、どんな取り組みをしたらよいか。

1 「花育の日」の課題

- ・「花育の日」協力店の取り組みや花育体験には、興味・関心のある人しか参加しない傾向がある。
- ・「花育の日」の認知度が低い。
- ・協力店の理解により協力していただいているが、協力店が増えない。協力店の参加意欲を上げる工夫が必要である。

2 課題に対する意見（委員よりいただいたご意見）

- ① 無関心層にアプローチするための方法など
- ② 「花育の日」の認知度向上のための効果的な周知方法や取り組みなど
- ③ 「花育の日」に、より多くの協力店で実施できる取り組みなど
- ④ 協力店の参加意欲の向上や新たな協力店の参画を促すような方法など
- ⑤ その他のご意見

3 「花育の日」の目的、概要 及び 令和元年度の取り組み

資料2 参照

① 無関心層にアプローチするための方法など

イベント

- ・不特定多数の人が集まるイベント会場
- ・いわゆる物日に開催
- ・多分野とのコラボ、プロのイベンターやデザイナーの活用

公共のオープンスペースでの PR 活動

情報発信

- ・花にまつわるエピソードも発信
- ・新聞・テレビなどの活用

気軽にできる花栽培体験（畑の貸出、駐車場有）

市民向けアンケート（認知度、希望する企画など。年齢、性別、職業別等で認知度の違いを分析）

- 無関心層はそもそも生花店や食花センターには足は運ばない。普及活動は不特定多数が集まるイベント会場などの代替案を検討する。
- 生きていくうえで花と触れ合う機会、見る機会が全くない人はいないはず。いわゆる物日。と言われる母の日、お盆、彼岸、結婚式、お葬式、そして花見などなど。イベントでも花だけではなく、いろいろな分野とのコラボレーションが必要だと思います。プロのイベンターやデザイナーを入れるのも一案
- 車を止められるところが近くにある畑を貸し出し花栽培専用の畑として市民に体験してもらおう。
- 「花育の日」の認知度・希望する企画等について、市民向けのアンケートを実施してはどうか？年齢別・性別・職業別等で認知度等の違いを分析し、認知度の低い層に向けて検討を行うべきだと思う。これらのデータの推移も調査する必要がある。おそらく10代後半～40代の認知度が低いと思われるが、この世代の委員を増やすべきだと思う。
- 花そのものだけでなく、花にまつわるエピソードを発信することで関心をもつ人の幅が広がるかもしれません（図書館等を活用して）
- 新聞やテレビなどにパブリシティとして取り上げてもらう。すでに取り組んでいるのかもしれませんが、さらに努力していただきたい。お金のかからない情報発信として有効だと思いますが。
- 引き続き、NEXT 21 や古町、万代などのオープンスペースでの花育の PR 活動

② 「花育の日」の認知向上のための効果的な周知方法や取り組みなど

情報発信の工夫

- ・花育通信、HPなどに、花育コラムを連載（花育マスター、花育の日協力店）
- ・メディアに取り上げてもらえるような企画のイベント開催
- ・チューリップ栽培100周年と連動した情報発信
- ・ターゲットにより、場所や内容を変える
 - テレビ、SNSの活用 → 若い世代
 - 大型ショッピングモールなど → 親子
 - 若い世代や親子
 - 学校での取り組み
- ・花育レンジャー、花育アイドルなど（ゆるキャラ以外）
- ・多くの場所で一斉に花育活動

学校、幼稚園・保育園での花育

- ・必須科目にする
- ・学校給食に花育メニューを導入
- ・花育協力校制度の創設（総合学習、ひまわりクラブなどでの花育活動をする）→ 子どもから保護者への波及効果
- ・課外学習で関わる

- 参考資料「花育ってなんだろう」の内容が抽象的でわからない。例えば花育マスター、花育の日協力店が交代で花育通信・HPなどに花育コラムを連載する（謝金不要）PRとしての位置づけに納得される方に。
- とにかく、続ける以外に方法はないと思います。あの有名なアップル社りの iPhone でも認知され利用されるまでに7年の時が必要でした。
 - ・ 幼稚園、小学校・中学校の義務教育で必須科目にしてもらう。
 - ・ 課外学習での関わり、地元のラジオ・テレビでのプロモーションを利用する。花育レンジャーを結成、花育アイドルでもいい。ゆるキャラは飽きました。
SNSでの情報発信 各学校からの発信や個人、新潟市など
- メディアで取り上げてもらえるようなイベントを企画する。（企画会社に依頼）
〇〇月19日に花育を一斉に行う（多くの場所で花育）
- 学校給食で「花育の日」または「花をイメージする食品」などを取り入れた献立にするなどで、子どもたちへの周知ができるのでは
- 今年・来年は本県がチューリップ栽培100周年に当たるので、それと連携した情報発信を考えられないでしょうか
- 子どもを対象とした花育の日の活動が、保護者への伝わり、認知度向上に繋がると思います。その点から＜花育協力校＞制度を創設し、協力校では総合学習の時間やひまわりクラブの活動等で、積極的に植物、花、緑に関する内容に取り組んでもらう。
- テレビまたはSNSでの情報発信が若い世代には一番とどくように思える、また、大型ショッピングモールでのPRなど「親子」を対象としたPRも必要ではないかと思う。

③ 「花育の日」により多くの協力店で実施できる取り組みなど

花育の日の取り組み場所と内容の工夫

- ・学校の行事（入学式、卒業式、運動会など）で“児童に花を贈る”体験を協力店と連携して行う
- ・スーパーマーケットなどの小売店、学校、介護施設、図書館、美術館等、花屋さん以外の場所で。
野菜の花あてクイズなどで、花に興味を持ち、実際の花に興味・関心がいくようなしくみづくり
- ・街の一画で花や植物で安らぎの花空間を創る

体験講座

- ・花育の日と連動した花育体験を協力店で実施

アンケートの実施（花屋さんの意見を聞く）

- すでに生花店に足を運ぶ方に花育の日は不要であり、現状の取り組みによる生花店側のメリットは少ない。花育の主たる対象者が幼児・児童であれば花育の日の周知は広報にとどめ、その予算を運動会や入学式・卒業式などで“児童に花を贈る”を主体となる体験を協力店で行うなど取組内容を要検討
- 乱暴な言い方ですが協力店が花屋だけでなくともいい。スーパーマーケットや学校、介護施設、図書館、美術館、ポスター貼ってくれる所やイベントにも協力をお願いする。
スーパーでの野菜の花はどれ？クイズや、学校施設でこの種の花は？クイズ、図書館で、小説や万葉集に出てくる花はどれ？クイズ。 などなど花に興味を持ってくれる、実際の花を見たくなる仕組みが必要。
小学校に至っては、今度からプログラムの授業があるので、花育ゲームを作るなども考えられる。
- 基本的にアンケート等により花屋（小売流通業）の意見を聞くべきだと思う。
その上で均一の企画ではなく、各花店独自の企画を尊重した方が良いと思う。共通なのはのぼり旗の掲揚程度ではないか。
- 街の一画を花や植物で飾る（費用はかかりますが）安らぎの花空間を創る
- 花育の日の前後の週末などに、協力店で寄せ植えやフラワーアレンジのミニ講座を開催してもらおう。

④ 協力店の参加意欲の向上や新たな協力店の参画を促す方法

協力店の PR、ひいては、売り上げにつながるような取り組み

- ・ SNS やメディア等で PR
- ・ 花育体験（花の売上に貢献）

アンケートの実施（協力店の意見を聞く）

協力店が連携してイベントなどを開催（個々でなく）

※地域コミュニティへの協力依頼

- SNS で楽しそうな動画発信、場所のタグ付けでそのお店の宣伝にもなる。
生花店では、体験ミニレッスンも出来る、花の売上にも貢献
テレビ局にも取材してもらおう。
- ③と同様にアンケート等による花屋（小売流通業）の意見を聞くべきだと思う。③に繋がるが、
協力のハードルを下げて、各花屋独自の企画を尊重した方が良い（特典やサービスの実施にこだわる必要はない
- 地域コミュニティへの協力依頼はどのようにされているのでしょうか
- 協力店を市報や花育通信、その他メディア等で紹介、PR し、話題や売り上げ UP につながるような方法を作るのはいかがでしょうか。
- 小売店が個々の店で行う取組だけでなく、お店同士が集まってイベントを開いたりしてはどうか。

⑤ その他

ターゲットの絞り込み

世代、性別、職業、花好きか否か等

学校で花育に取り組めるようなゆとりが必要

花育も市、学校、団体等が連携して動かないと認知度向上につながらない

「新潟の花を贈ろう」キャンペーンの実施場所と認知されているか疑問である

食育・花育センターの取り組みに改善が必要

花育マスター制度は、継続すべき

- 「新潟の花を贈ろう」キャンペーンがすでに植栽されている空間（食花C）となっているが本当に知られているか少し疑問。
- 年配の男性に、花なんかゴミになる、花なんか食べられないと言われたことがあります。そんな世の中でいいのでしょうか？日本の若者の自殺率の高さ、引きこもりの多さ！これは問題だと思います。機械に囲まれた暮らしがいいのでしょうか？野菜に囲まれた葬儀がいいのでしょうか？私にはわかりません。これからの子供達が心豊かに、人を思いやり、和を重んじ、センスのある人に育ってほしいと願います。いよいよ「令和」の時代になります。この元号のもとになっている万葉集の時代には、花をめでの文化がありました。日本の美しい文化・花をめでの。 まだまだ、花育は必要ですね。食育・花育センターについて改善が必要なのではないか？ もっとプロの手をいれなければ先細りになりそう。
- 「花育の日」のメインターゲット（世代・性別・職業・花好きか否か等）をある程度絞り込んだ方が良いと思う。これをしないといつまでも同じような状況が続くように思う。このような意見集約は、電子メールでの連絡・回答ができるようにしていただけると助かります。
- 子どもたちとゆっくり花を育てることのできる“ゆとり”が学校現場にできるとよいと思います。
- 花育マスターの回数・人数が減ったとはいえ簡単に止めるべきではないと思います。努力をしながらも3年連続でその数字が減り続けるようなら止めることもしょうがないかもしれませんが、とにかく3年位は観察すべきでは？
- 食育は学校給食での取り組みもあり、認知度が高いが、花育も市・学校団体などが一緒に動かないと認知度はあがらないと思う。